**令和５年度 岩手県生コンクリート品質管理監査会議 独自の調査項目**

**C　実地調査（追加調査）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | 監　　査　　基　　準 | 調　　　　　査 | | 判　　　　　定 | 監査時のﾒﾓ |
| ﾁｪｯｸﾎﾟｲﾝﾄ | 結　　　果 |
| 2. 製品の検査 | 当日の圧縮強度試験結果（材齢28日）  ※ 材齢28日の供試体が無い場合は，材齢7日の圧縮強度試験を行い，7日と28日の関係式から材齢28日の圧縮強度を推定する。  ● 配合：  ● 関係式：  ● 供試体サイズ  ●φ100mm×200mm　□  ●φ125mm×250mm　□  ●載荷時間：載荷直後から終了まで  ●載荷速度：小数点以下1桁に丸める | (1) 圧縮強度試験の試験方法  (JIS A 5308　10.2.1圧縮強度，JIS A 1108) | a：JISに適合している  c：JISに適合していない | a □　c □ |  |
| (2) 圧縮強度試験の結果   |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | No. | 質量 (kg) | 最大荷重 (kN) | 圧縮強度 (N/mm2) | 載荷時間 (秒) | 載荷速度(N/mm2/秒) | | 1 |  |  |  |  |  | | 2 |  |  |  |  |  | | 3 |  |  |  |  |  | | 平均 |  |  |  |  |  | | | |
| (3) 圧縮強度の適合性の確認 | a：SL以上　　b：0.85SL以上 ～ SL未満  c：0.85 SL未満 | a □　b □ c □ |
| 圧縮強度試験用供試体の作製 | (1) 圧縮強度試験用供試体の作製方法  (JIS A 1132) | a：JISに適合している  c：JISに適合していない | a □　c □ |  |
| ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛ-，及び空気量 | (1) ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰの試験方法  (JIS A 1101，JIS A 1150) | a：JISに適合している  c：JISに適合していない | a □　c □ |  |
| (2) ﾀｯﾋﾟﾝｸﾞ後のｺﾝｸﾘｰﾄの評価 | a：ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸでﾜｰｶﾌﾞﾙ  b：ｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ不足，砂量が不足  c：砂量がやや不足し，粗骨材が分離傾向  d：その他（　　　　　　　　　　　） | a □　b □  c □　d □ |
| (3) 空気量の試験方法  (JIS A 1128，JIS A 1118，JIS A 1116) | a：JISに適合している  c：JISに適合していない | a □　c □ |
| 塩化物含有量 | (1) 塩化物含有量の試験方法  (JIS A 5308　10.6塩化物含有量) | a：JISに適合している  c：JISに適合していない | a □　c □ | その他の機種名： |
| (2) 塩化物含有量測定器の機種名 | a：ソルメイト－100　　b：ソルターC－6  c：カンタブ　　　　　 d：その他 | a □　b □  c □　d □ |
| 3. 容積の検査 | 容積 | (1) 単位容積質量の試験方法  (JIS A 5308　10.7容積，JIS A 1116) | a：JISに適合している  c：JISに適合していない | a □　c □ |  |

|  |
| --- |
| **【令和５年度　岩手県生コンクリート品質管理監査会議　特別調査】** |
| ● 本調査は，岩手県生コンクリート品質管理監査会議が独自に行うもので，全国統一品質管理監査の結果（減点数）に影響するものではありません。 |
| ● 監査受検工場の廃棄物の堆積ヤード，中和後の排水処理，リスクアセスメント，および廃棄物の処理状況を調査し，今後の品質管理および環境保全の向上を目指すものです。 |
|  |
| **１．廃棄物の堆積ヤード**   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 項　　　　　目 | 種類① コンクリートくず□　汚泥□　その他□（　 ） | 種類② コンクリートくず□　汚泥□　その他□（　 ） | | (1) ヤードの堆積容量 | （ｍ3） | （ｍ3） | | (2) 現在の概数・堆積量 | （ｍ3） | （ｍ3） | | (3) 保管状態（浸出水の経路など） | a：全て満足□　 b：一部問題あり□　c：改善を要す□ | a：全て満足□　 b：一部問題あり□　c：改善を要す□ | | (4) 表示を設置しているか | a：全て満足□　 b：一部問題あり□　c：改善を要す□ | a：全て満足□　 b：一部問題あり□　c：改善を要す□ |   **※ 上記(1)，(2)，(3)の項目は，工場側の申告による。** |
| **２．中和後の排水の経路（中和設備がある場合に記入してください）**  （1）中和後に別系統からの混入はないか　　　　評価： （　a：すべて満足 □ b ：一部問題点あり □ c ：改善を要す □　）  （2）中和設備周辺は清掃されているか　　　　　評価： （　a：すべて満足 □ b ：一部問題点あり □ c ：改善を要す □　） |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **３．リスクアセスメントの実施状況**   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 項　　　目 | 結　　　果 | 判　定 | 調査時のメモ | | (1) 危険性・有害性の特定  工場で取扱う化学物質等の危険性または有害性について，安全データシート(SDS)を入手し危険性・有害性を特定している。 | a：取扱っている化学物質のSDSを入手し，危険性・有害性を特定している  b：一部特定していないものがある  c：特定していない | a □  b □  c □ |  | | (2) リスクの見積り  　特定した化学物質について，作業種類ごとにリスクを見積もっている。 | a：リスクを見積もっている  b：一部でリスクを見積もっていない  c：リスクを見積もっていない | a □  b □  c □ | 【リスクの見積もり方法を記入】  ※ わかる場合で結構です | | (3) リスク低減措置の内容の検討  　作業種類ごとに見積もったリスクについて，リスクを低減させる方法を検討している。 | a：全ての作業でリスクを低減させる方法を検討している  b：リスクを低減させる方法を検討していないものがある  c：全ての作業でリスクを検討していない | a □  b □  c □ |  | | (4) リスクアセスメント結果の労働者への周知  　リスクアセスメントを行った結果について，取扱う化学物質の危険性または有害性を労働者に周知している。 | a：労働者に周知している  b：労働者への周知が不十分である  c：労働者に周知していない | a □  b □  c □ | 【ﾘｽｸｱｾｽﾒﾝﾄ結果の周知方法を記入】 | |
|  |

|  |
| --- |
| **４．廃棄物の処理状況**  (1) 残コン・戻りコンの有無　　有る □　　無い □  ● 有る場合・その処理方法：      ● 無い場合・その理由：      (2) 令和4年度のコンクリートくず・汚泥の排出量（合計）  　　 ● 0トン（t）以上　 250トン（t）未満　□　　● 250トン（t）以上 500トン（t）未満　□  　　 ● 500トン（t）以上 1,000トン（t）未満　□　　● 1,000トン（t）以上　　　　　　　　　　 □  　　※　廃棄物の重量（t）＝廃棄物の容積（m3）×産業廃棄物種類別重量換算係数  　　※　産業廃棄物種類別重量換算係数  ● コンクリートくず：1.0　　● 汚泥：1.1  (3) 令和4年度の廃棄物の排出量の出荷量に対する割合  　　●　廃棄物の排出量（m3）：　　　　　　 ●　出荷量（m3）：  　　●　廃棄物の排出量（m3）／出荷量（m3）：　　　　　　 （％） |
|  |

|  |
| --- |
| **【　特記・気付き事項　】** |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |